

ビルの17階にある バイクのためのガレージ。

台湾 Eddy 邸

人口2300万人の島国、台湾。日本から飛行機で約4時間と近く、観光地としても人気のスポットだ。日本と環境が似ていることから、スペースを効率よく使いクルマやバイクを所有しているオーナー・エディさんを訪ねてみた。

photo/ 藤健雄 text/Jun-ISHIHARA (石原 淳)
special thanks to MOTORVATION ART DESIGN
http://www.motorvationartdesign.com/
special thanks to セーフティーライフ
phone/052-221-8684 http://www.safety-l.com

04

OVERSEAS

GARAGE LIFE EXAMPLE

扉面にセキュリティが施された会社の入り口。カスタマイズするバイクや、愛車は玄関ドアから出入りする。



上ノ現在、作業中のオートバイはリフトに設置。CHYUN TSEH INDUSTRIAL COという台湾自国のリフトメーカーの製品。右ノショールームに飾られたグラフィックが入ったヘルメットも彼の作品。カスタム文化は世界の国々でも共通。



台湾でもここ数年、ガレージの文化が浸透しつつある。今回、取材陣が出向いたガレージは、オフィスビルの17階にあるというバイクガレージ。台湾の繁華街にクルマは向かい、地下のパーキングに停車した。日本という東京・表参道に位置する街中だ。地下には大きめのエレベーターが用意され、スタッフはそれに乗り込みガレージがあるという17階に向かう。このエレベーターはオートバイや自転車専用で、エンジンを停止して愛車に乗せることができるそうだ。

17階に到着し、専用のドアを開けると、今回の

器、エディさんのガレージスペースが現れた。このスペースはエディさんの父親が25年前に購入した一室で、2009年にリノベーションをして大きな部屋としたという。エディさんのガレージはワークスペースもかねており、デザイナーとして活躍する彼はここで『MOTOR VATION ART DESIGN』の作品を仕立てている。通称MADと呼んでいるオフィスでは、オートバイをベースにカスタマイズし、今まで多くの顧客に作品を提供してきている。

その作品の多くは、このガレージから生まれ、台湾

の繁華街の夜景を見ながら生まれた彼のインスピレーションが表現されている。アメリカで工業デザインを学んできた彼はそのスキルを活かして1994年に会社を設立。オートバイが好きで彼にとっては好奇心の延長としてモーターサイクルを中心にヘルメット、アパレルなどのデザインを起こしてきた。その作品が認められ、多くの注文を得ているのだった。そしてその作品はオートバイだけにとどまらず、時計、ステレオ、ガレージなど男性が好むものにその範囲が広がりに至る。



上ノ作業スペースの反対側にはソファが置かれ、くつろぐことができる空間を確保。大好きなドリンクが床面を走り回る。
左ノハーレーやカワサキ、ホンダ CBR などのカスタマイズを手掛けるエディ氏。コンセプトは男のスピリッツを感じるマシンたちだ。

04 リフトを備えた作業スペース。 夜景が楽しめる空間は贅美。

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF EDDY

さて、ガレージに話を戻したい。リノベーションに費やした期間はおよそ7ヶ月。デザインに5ヶ月、工期は2ヶ月だった。夜景がきれいな17階の立地を生かして、リノベーション時には夜景がどのように見えるのか、どのスペースにオーディオルームや作業場所にするかを意識してデザインが施された。オートバイをカスタマイズするためのリフト、そして排気ガスを屋外に出すシステムを導入。日本ではすっかりお馴染みの“EG WAY OUT”で、現在開発中のオートバイ用をいち早く予約、今年中に導入する予定と

か。まさにオートバイのためのワークスペースとなっている。エレベーターはマンションに全部で3基。ただしオートバイを出し入れする専用は1基。本当はクルマもガレージに保管したいそう。

さて、エディさんのワークスペースにはオーディオルームとお酒を飲むためのバーが用意されている。クライアントとの打ち合せをかねて飲むこともできるし、彼が好きなジャズを聴くための専用スペースも用意され、つねにリラックスした状態で仕事に臨むことができる仕組みができていくようだ。そして奥さまとの大事



足廻りをばらしてカスタムパーツに交換。エディさんの作業は多岐にわたる。バイク好きなエディ氏が仕事としてカスタマイズに励んでいる。

04 PLANNING DATA & MATERIALS

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF EDDY

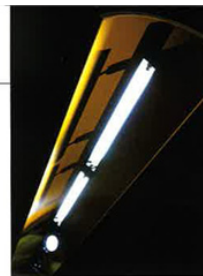
専用エレベーターで上層階へ上がると、
大きなスペースのショールームだった。

な時間を過ごすスペースも忘れずに設計。ドアの向こう側に生活スペースがあるが、ワークスペースと明確に区別をしてオンとオフをしっかりと分けているようだ。

ビルの17階に用意されたバイクのための保管スペース。窓から見える夜景はガレージから見える景色としては最高のもの。しかもアートとしての作品と

ともに景色を楽しめるうらやましいスペース。将来の夢はクルマをカスタマイズするガレージが上層階に欲しいという。それは限られた土地のなかで暮らす台湾ならではのアイデアかもしれないが、景色も手に入れたデザイン性に富んだガレージは参考になるだろう。さすが、アーティストの秘密基地である。

オートバイを運搬用の専用エレベーターが1基。床面は汚れているが、バイクを上層階で保管するための必需品。



蛍光灯とスポットライトを使い分けているガレージ内。反射のことを考えてイエローのバーで覆っている。

オフィスでありながらバーも備えるガレージ。なんと好きなアルコールは日本酒の久保田という流しチョイスだ。



ジャズを聴くのが好きという氏はオーディオルームにもこだわりの。WAZOO や Accaphase でセットを揃えている。



左ノ壁面をくりぬいてショーケースのようなディスプレイを考案。ラジコンカーにスポットが当たるように工夫している。右ノジャンルを開いた、ラジコンカーを所有している。ガレージの床面を使っているドリフトは得意中の得意。

こちらは既存を活かして、乗客乗客予定のバイク用「EG WAY OUT」バイクスタンドを流して使用する予定。バイク用スタンドと排気ガス吸入システムが一体になっている。バイク用も現在、開発中。

編集委員が見つけたポイント

オフィスビルをリノベーションして設計されたスペースだが、素材を研究して床材にはバイクの停車にも耐えられるものを使用。排気ガスのことも考えてダクトを用意するなど専門的な知識がないと設置できない設備を導入。ライトもスポットと作業用の蛍光灯を設置するなど本誌で提案してきたシステムが導入されている。



P PLANNING DATA
所在地 台湾
施主 Eddy Ching
madeddy2go@yahoo.com
竣工 2009年 (リノベーション)
構造 RC18 階建てマンション
ガレージ面積 200坪
乗車 2台 (ハーレー・ダビッドソン48 / カワサキ W800 / カワサキ ZX10R / カワサキ Versys650 / MV アグスタ ブルターレ675 / アプリリア SR50R)

O OWNER'S CHECK
■一番気に入っているところは？
音楽を聴きながらバイクを眺めて、バーで楽しむところですね。
■ちょっと失敗したところは？
もう1度、リノベーションするチャンスがあったらレイアウトを変更したい。もっと夜景が見えるようにね。
■次の夢はなんですか？
クルマを入れることができるガレージをデザインしてみたい。マスタングを入れたいですね。
■読者へのアドバイス
何のためにガレージを造りたいか、目的をはっきりさせて建てる方がいいと思います。

エンジンブロックを利用して強化ガラスを置いてデスクとしている。まさにこの国でも考えられるのは同じと納得する。

